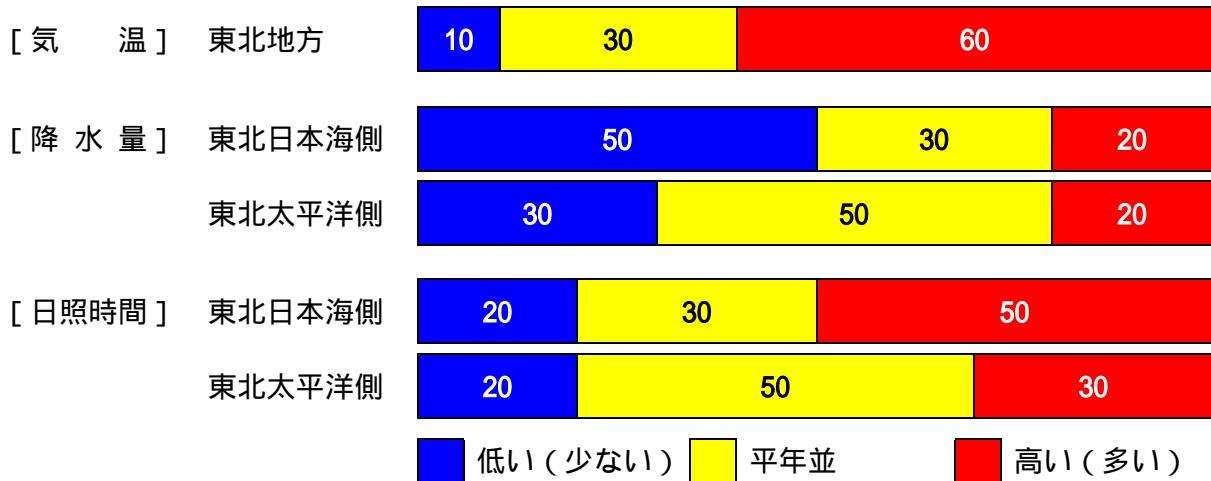


東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:2月16日~3月15日)

平成14年2月15日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気 温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は 60%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「低い」の可能性は 10%と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(最も高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、降雪量も少ない見込みです。東北太平洋側では平年同様晴れの日が多いでしょう。

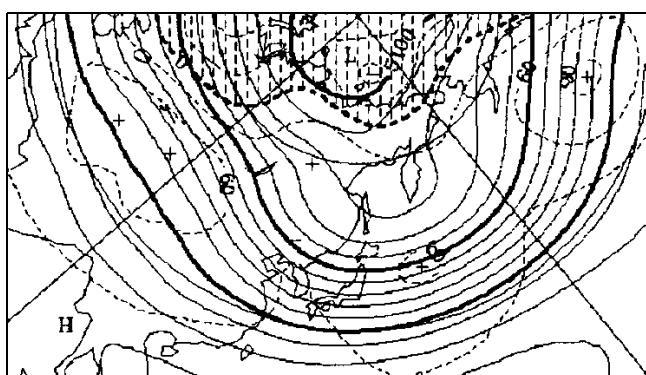
平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約9日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (2月16日～2月22日)	明後日(17日)は気圧の谷の影響で天気がくずれるでしょう。 その後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪の降る日が多く、東北太平洋側では、沿岸部を中心に概ね晴れる見込みです。 平均気温は高いでしょう。 平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約4日
2週目…………… (2月23日～3月1日)	天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 平均気温は高いでしょう。 平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約4日
3～4週目…………… (3月2日～3月15日)	天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 平均気温は高いでしょう。 平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

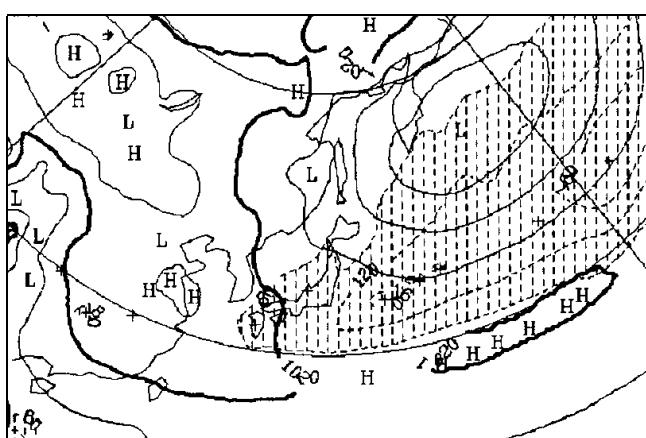


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近を含む中緯度帯は広く正偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化。低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置となるが、持続的な寒気の南下はない見込み。

週別（図略）でも月平均と概ね同様。



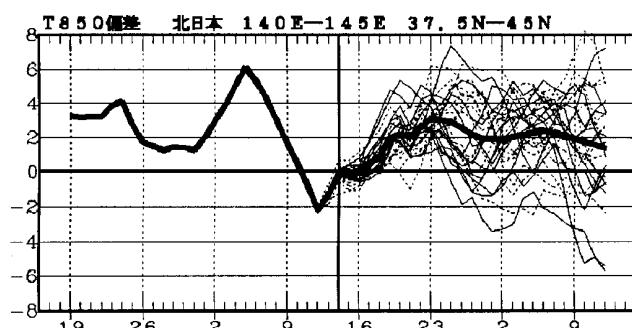
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧、カムチャッカ半島付近に低気圧があり、西高東低の冬型の気圧配置となっている。しかし、日本付近の等圧線の間隔は広く、冬型の気圧配置は弱い。

降水域が日本付近にかかるが、中心は日本の東海上。

週別（図略）でも月平均と概ね同様。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸 : 気温平年差 () 横軸 : 日付）

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）
の平均値

北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は期間を通して高めに推移する。

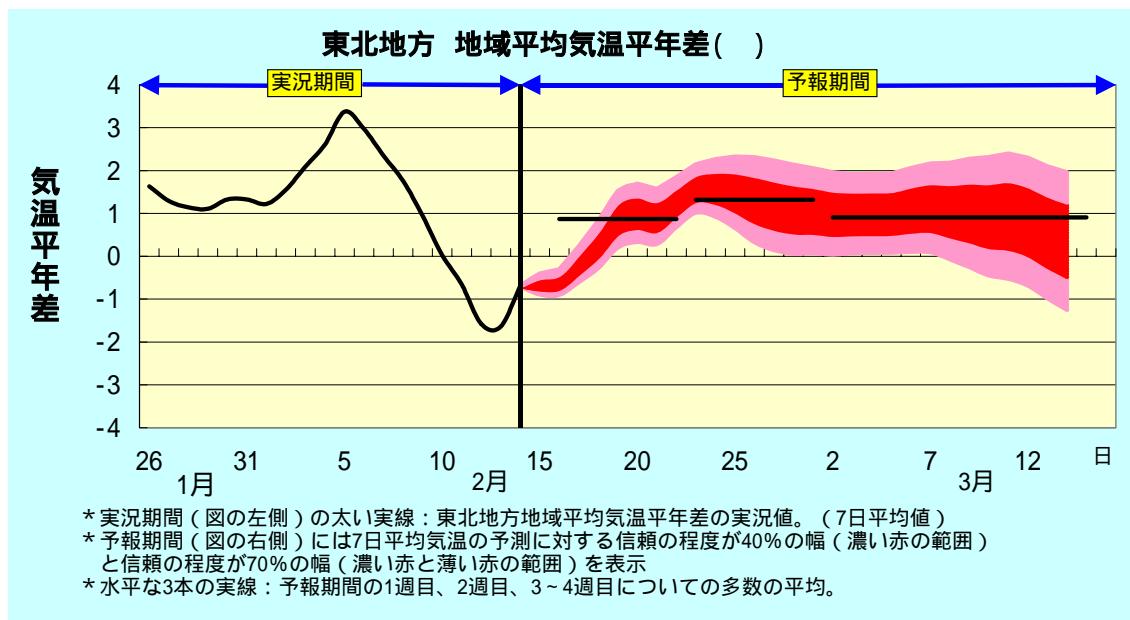
なお、2週目以降はバラツキが大きいが、多くのメンバーが高温を予想している。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目は「平年並」、2週目、3~4週目は「高い」を予測している。

予報は、1週目他の資料から「高い」に修正する他は予測通り。

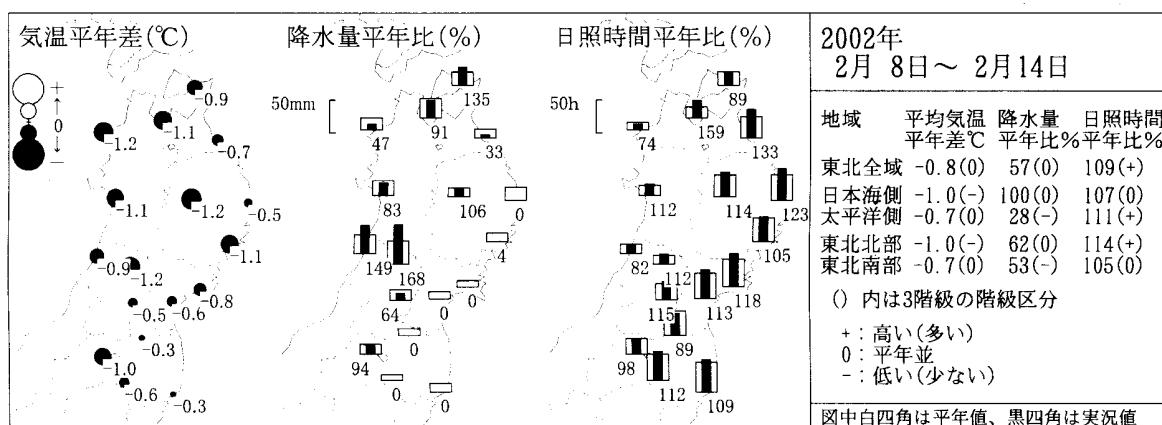
なお、予報の信頼度は大きい。



4. 最近1週間（2月8日～2月14日）の天候の経過

この期間冬型の気圧配置が続いた。このため東北日本海側は雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多かった。13日の朝は晴れて放射冷却も加わったため、各地でこの冬一番の低温となり、盛岡では-13.7℃を観測した。

平均気温は、東北日本海側で平年差-1.0℃と低く、東北太平洋側は-0.7℃と平年並だった。降水量は、東北日本海側で平年比100%と平年並、東北太平洋側では平年比28%と少ない。日照時間は、東北日本海側で平年比107%と平年並、東北太平洋側で平年比111%と多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)